

夏季課外発進

本年度の夏季課外が、本日から始まりました。3年生は理科社会の課外、1・2年生は英・数・国の60分授業です。

ところで、学習の効率を突き詰めすぎて、手軽な英単語集の丸暗記や、古文単語集の丸暗記を受験勉強であると勘違いしている生徒諸君に、一言校長から申し上げます。

単語集の丸暗記も大切なことだが、夏季休業中は、きちんと辞書を繰って言葉の学習の幅を培ってほしいと思います。また、単語集を見つめるだけでなく、声に出して読み、同時に手を動かして単語を何度も書き、数学の解答を何度も何度も試みることを積み重ねてほしいのです。広辞苑を読み、詳説古語辞典を読み、ジーニアス英和辞典を引いて、大学への数学の問題を解いてほしいのです。

辞書には索引があり、付録もあります。英和辞典には、接頭語の知識も接尾語の知識もあります。漢和辞典には、その漢字の成り立ちの説明があり、時代に寄っての読み方の違いがあり、広辞苑や古語辞典には、同じ言葉でも漢字が違うことで意味が代わることも分かります。また、同じ助詞でも、間投助詞の場合や終助詞の場合や接続助詞の場合によって意味が代わることも分かります。和歌の説明もあるし、文学史やその当時の文化の違いについても、図による知識がどんどん広がります。

電子辞書には、その言葉の意味をすぐに引ける利点と一つですべての辞書がわかるという持ちやすさという利点がありますが、広がりがありません。辞書を繰りながら、A4のノートを広げ、様々書きだし、付箋などもうまく使って、自分のノート作りを楽しんでほしいのです。大学への数学の問題に苦悶してほしいのです。

その学習をすることが楽しくなると、8時間くらいはあっという間に過ぎます。午前中で課外を終了し、明日の予習を教室や学習室やラトブで行い、家に帰って、4時過ぎから12時くらいまでそんなことを10日間続けることができると、次の10日は同じ分量を半分の時間でこなせるようになります。

早く済ませることができれば、数学も英語も国語も自分のペースが確立していきます。古文でいうと、百人一首や、説話物語集の学習によって、和歌の知識が体系化していきます。英語の構文や単語も、体系化することによって忘れてもすぐ思い出す道筋が身につきます。

現代文と数学は、解法のルートのために、必ず必要な概念の体系化が大切です。様々な文章の構造を知ることとその根底に流れるいいたいことと言葉の概念の知識が必要です。数学においては、その問題の考え方の基本理念と発展のさせ方におけるインスピレーションの方法を知らねばなりません。

この課外期間で、恐らくこれからの学習の方向性が決まります。幅の広い学び方を身に着け、すそ野を大きくすることができれば、自分の世界を広げていけると思います。みんな頑張りましょう。(つづく)